

世界に誇る日本の美術

(財)林原美術館館長 熊倉功夫

今年度の展覧会は、屏風からはじまります。

屏風は中国から伝わったものですが、日本で独自の発展をとげ、西洋の辞典にも早くから採用された日本語の一つになつてゐるくらいです。

日本の屏風の機能は、座敷を飾ることにあるのはもちろんですが、それに加えて、一種のボロ隠し、という意味あいもありました。

最近は自宅で冠婚葬祭をとりおこなうことが少なくなりました。が、それは準備が大変だからです。家の中のガラクタや箪笥などの家具をお客の目にさらしたくない。とすると、ここにカバーをかける。葬式であれば紫と白の幕、祝儀であれば紅白の幕を部屋中に張りめぐらせることが、今もおこなわれます。かつての屏風もそのように、部屋の壁面を隠す使い方があつて、高さといい、幅といい、襖に相当する大きさが求められるようになつたのでしょう。

当美術館には、大名道具として必須の、そうした大屏風が何点か収蔵されています。豪壮にして華麗な屏風の世界へ皆様をお誘いします。林原美術館が所蔵している屏風にしても、能装束にしても、あるいは蒔絵の工芸にしても、世界に冠たる日本の美といえましょう。今、日本人は自信を失い過ぎています。暮らしやすさからいえば、世界のトップクラスにある日本なのに、日本はよい国だと思つている国民のパーセンテージは、世界の九〇位です。この自信のなさ、自国を誇りに思ふ気持ちの薄さはどこからくるのでしょうか。私は、日本の文化に対する無理解からきていると思います。日本が育んできた美術工芸、衣食住、もてなし、ふるまい等の文化とそのままらしさを再認識することから、日本人の自信がとりもどせると私は考えています。



桐鳳凰図屏風(左隻)

企画展

「はなやかな屏風」

平成23年4月3日(日)～5月29日(日)

屏風はもともと「風を
屏(ふさ)ぐ」ために用い
られ、日本の邸宅を飾る
大切な調度品でした。今
回は世界地図を描いた珍
しい屏風をはじめ、松・
竹・梅といったテーマで、
鳳凰や唐獅子などをテーマとする晴れ
がましい華やかな屏風を
中心に展示します。



坤輿万国全図屏風

「戦国の雄 池田家」

平成23年10月30日(日)～12月25日(日)

岡山藩主池田家は、織田信長に仕えた池田恒
興、姫路城主の輝政、監国として備前国を治めた
利隆などの名将を輩出しました。戦国から江戸
時代にかけて活躍し、池田家の礎を築いた武将に
まつわる文書・武具・所用の品々を展示し、池田家
の系譜を
振り返り
ます。



池田輝政画像

「うるわしきうるしの美」

平成24年1月7日(土)～3月4日(日)

日本を代表する
工芸品である「漆」。
「うるわしい」「うる
おす」との語源を持
つといいます。本展
覧会では館蔵品の
漆工芸品を中心に
ご覧ください。



草花文七宝八角壺

南天扇面蒔絵食籠

美術館グッズのご案内

美術館グッズが充実しております！
ご来館の際は是非お手にとめてご覧下さい。



「中国の工芸 —陶磁器・七宝・ガラス—」

平成23年6月10日(金)～8月15日(月)

館蔵品の中から中国の陶磁器や七宝類、ガラス
工芸品などの「器物」を中心に展示します。古くは
後漢時代の青銅器から清代の陶磁器や七宝焼にい
たるまでの様々な形のうつわを御覧いただきます。
特に七宝焼は乾隆帝時代のものと考えられ、その
豪華さは清
王朝往時の
華やかな時
代を彷彿と
させます。



「飛翔する蝶の紋 —戦陣の備え—」

平成23年8月27日(土)～10月23日(日)

本展覧会では、備前池田家に伝来した戦陣で
用いられた様々な染織品をご紹介いたします。戦
いの場では家紋をあ
らわした幡(はた)を
立て、幕を設けて、人
の目をひく印としま
した。衣服のみなら
ず、様々な道具とし
て調べられた染織品
を広くご紹介します。

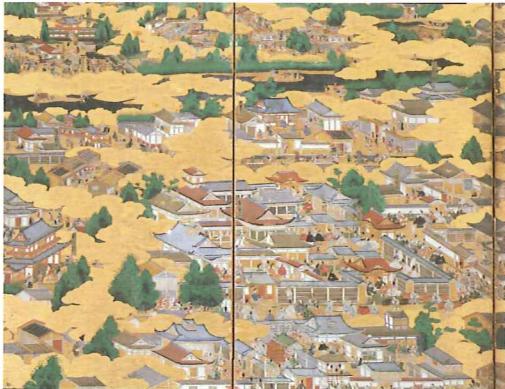


泊蝶紋纏

特別展

「洛中洛外図屏風に 描かれた世界」

平成24年3月17日(土)～4月15日(日)



洛中洛外図屏風(当館所蔵・部分)

京都の景観を描いた洛中洛外図は、桃山時代から江戸時代前期を中心に制作され、当時の都市の景観や風俗を今に伝えてくれています。中でも若き日の狩野永徳が描き、織田信長が上杉謙信に贈った上杉本(米沢市上杉博物館)は、その細密な描写や由緒から洛中洛外図の白眉と言えるでしょう。これらのほかにも、現存する洛中洛外図のなかで最も古体をあらわす舟木本(東京国立博物館)や下書きながらもその精緻な描写でしられる東博模本(同)、江戸時代初期の景観を描き、徳川和子の入内行列をはじめとして3000人をこす人物が描写された当館所蔵の池田本や、池田本と同一工房で制作された岐阜市歴史博物館本など、日本を代表する洛中洛外図を一堂に集め、描かれた京の雅をご覧いただきます。

イベント

お花見・お月見・お茶会ほか

◆お花見の会「お花見野点と館長熊倉功夫を囲む会」

熊倉館長の講話、そして裏千家の数田宗枝先生が担当される野点のお茶席によるお花見の会も恒例行事となりつります。桜咲くうららかな春のひとときをゆったりとご満喫ください。

日時 平成23年4月2日(土)

定員 75名(要予約) 定員に達しました。
参加費 友の会会員4,700円 一般5,200円

◆「お月見の会」

今年は昨年に引き続き、ソプラノ歌手である豊田喜代美さんのコンサート、そして館長のお月見にちなんだお話を楽しんでいただきます。会場に響きわたる豊田さんのやさしく美しい歌声を聞きながら、たっぷりと芸術の秋にひたつていただきたいと思います。

日時 平成23年9月9日(金)

定員 各70名(要予約)
参加費 友の会会員3,000円 一般3,500円

◆秋のお茶会「林原美術館竹明庵茶会」

人気イベントの一つである林原美術館竹明庵茶会を、今年も例年同様、亭主を熊倉館長が務め、お水屋を裏千家の数田宗枝先生が担当します。熊倉館長のしつらいによるなごやかなお茶席で、一期一会の楽しいひと時をお過ごしください。

日時 平成23年11月19日(土)・20日(日)

定員 各80名(要予約)
参加費 友の会会員1,500円 一般1,800円

文化ゾーンを巡る旅

◆京都茶室巡り

毎年多数の応募をいただいております京都茶室巡りを、今年もご好評にお応えし開催いたします。熊倉館長の特別案内のものと、普段あまり観ることのできない空間に足を踏み入れながら、日本の歴史と伝統文化にふれてみるのはいかがでしょうか。

日時 平成23年5月28日(土)

定員 25名(要予約)
参加費 バス利用18,000円
京都から15,000円

◆美術館巡り

今年は尾張徳川家に伝来する「大名道具」1万数千件を所蔵する徳川美術館と、尾張の国が生んだ大茶匠であり、信長の実弟である織田有楽斎が建てた国宝の茶室「如庵」を巡ります。伝統文化を体感し、歴史ある名古屋を堪能していただきたいと思います。

日時 平成23年10月29日(土)

定員 40名(要予約)
参加費 13,000円

国宝茶室 如庵

林原美術館では、できるだけ多くの方々に「日本の伝統美術」に親しんでいただきたいという思いで、毎年さまざまなイベントを企画いたしております。
今年もご好評いただいているものから新たなるワークショップまで、さらに充実した内容となつております。皆様のご参加を心よりお待ちいたしております。なお、受付日等につきましては、当館までお問い合わせください。

ワークショップ

〈ステンシル教室〉

「好きなものを染めてみよう」

館員指導による楽しいワークショップです。ステンシル技法で染めたいものを持ち込んで、好きなものを染めてみましょう。自分だけの素敵な作品を作りながら、染色の楽しさを是非体験してください。

日 時 平成23年10月8日(土)

講 師 新井優希(林原美術館 館員)

定 員 24名(要予約)
参 加 費 3,000円

〈能体験教室「能を知る」〉

能とは何かをわかりやすく学んだあと、実際に能衣装を着けてみることで、演じる側の視点から能の伝統芸能を感じていただきます。体験後は、美術館や舞台の能鑑賞が今までとは違った見方でお楽しみいただけるのではないでしょうか。

日 時 平成24年3月24日(土)

講 師 梅若猶彦氏
場 所 林原美術館ロビー

定 員 30名(要予約)
参 加 費 友の会会員3,000円 一般3,500円

特別講演会

〈特別展「洛中洛外図屏風に描かれた世界」展 記念講演〉

※開催日時等が変更になる場合がございます。何卒ご了承ください。

日 時 平成23年12月3日(土)13時30分～15時
演 題 「八条宮と桂離宮」
講 師 林原美術館館長 熊倉功夫
会 場 岡山県立図書館等施設
定 員 100名(要予約)
参 加 費 友の会会員1,000円 一般1,200円

〈林原美術館講座〉

日 時 平成24年3月17日(土)13時30分～15時
演 題 「洛中洛外図屏風を読み解く」
講 師 黒田日出男氏
会 場 岡山県立図書館 多目的ホール
定 員 100名(要予約)
参 加 費 友の会会員1,000円 一般1,200円

美術館講座

〈紀要発表会〉

日 時

平成23年6月26日(日)13時30分～15時30分

演 題

「紀要5号発刊によせて」

講 師

林原美術館館長 熊倉功夫、当館学芸員

会 場

岡山県立図書館 デジタル情報シアター

定 員

80名(要予約)

参 加 費

友の会会員1,000円 一般1,200円

編集後記

今年度は定番の人気企画に美術館スタッフが中心となるワークショップが加わり、イベントも少しずつですが変化しております。展覧会はもちろらん、様々な視点からの皆様に楽しんでいただけるよう用意しておりますので、是非おでかけください！皆様のご来館をお待ちしております。

(杉村・新井)



「友の会」募集のご案内

●会員の種類・年会費
個人会員 1年 3,000円(新規)
法人会員 1年 7,000円(入会継続)
3年 27,000円(新規)
7,000円(入会継続)
3年 70,000円(入会継続)